20230525　富山新聞

廃アルミで温泉加温

アルハイテック開発　世界初

環境ベンチャーのアルハイテック（高岡市）は24日までに、廃アルミから水素を製造し、温浴施設の加温に利用する世界初の装置「温泉パッケージ」を開発した。同日、北陸ミサワホーム（金沢市）が運営する高岡市のレジャー施設「モン・ラック　タカオカ」で披露された。

装置は、廃アルミと反応液を混ぜることで水素を作り、その水素を熱源として温泉を加温する仕組み。アルハイテックによると、多くの施設で使用されている重油ボイラーと比べて二酸化炭素を排出せず、水素を作る際に精製される水酸化アルミも資源として活用できるという。

式典ではアルハイテックの水木伸明社長があいさつ。角田悠紀高岡市長らが祝辞を述べ、関係者がテープカットした。引き続き、出席者が水素を製造する装置や水素ボイラーなどを見て回った。

今後、モン・ラック　タカオカ内にある「越中五位花尾温泉　山桐子」の温泉で装置の有効性の確認を進め、実用化を目指す。水木社長は「装置は持続可能なリサイクルの形。温浴施設だけでなく、アルミを使う多くの業種に活用してほしい」と話した。

水素製造装置を見学する関係者＝高岡市のレジャー施設